

2005年5月12日

各位

### 小野薬品、米国メダレックス社と抗体医薬に関する共同研究契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市、社長：松本 公一郎）とメダレックス社（本社：米国ニュージャージー州、社長兼 CEO：Donald L. Drakeman）は、全く新しい作用機序の癌治療薬として可能性が期待される「完全ヒト型抗 PD-1 抗体」について共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

両社は、小野薬品が有する PD-1 に関する知的財産とメダレックス社のヒト型抗体開発システム UltiMab<sup>®</sup>を組み合わせ、すでに完全ヒト型抗 PD-1 抗体の医薬品候補の作製に取りかかっており、1～2年後を目処に臨床試験に入れるものと期待しております。

今回の契約により、両社は共同で抗 PD-1 抗体の商品化を目指します。なお、両社は第 Ⅰ 相臨床試験が終了するまでの開発費用を分担することになっていますが、当該試験における POC (Proof of concept：ヒトにおける有効性の立証)の確立以降は、メダレックス社は北米地域で、また、小野薬品は北米以外の地域を対象にそれぞれ開発を進めていくこととなります。

PD-1 はリンパ球の表面にある受容体の一種で、活性化しているリンパ球を沈静化させるシステム（負のシグナル）に関与していることがわかっており、癌細胞はこのシステムを利用して免疫反応（生体にとって不利益な病原体の侵入や発生した癌細胞を排除しようとする生命維持のための生体機能）から逃れているという研究成績が報告されています。このように生体防御機能を負に制御する PD-1 の活性を中和（抑制）することが出来れば、癌を異物と認識して排除する生体機能すなわち免疫反応が増進すると考えられます。メダレックス社と小野薬品の抗体は、患者さんの免疫システムを活性化して癌細胞を攻撃できるように、負のシグナルを制御するものと期待しております。

メダレックス社の社長兼 CEO の Donald L. Drakeman 氏は「癌治療の可能性を持つこの重要な新薬候補を開発するために小野薬品と提携出来たことは、我々にとって喜ばしいことである。」と述べています。

小野薬品の取締役研究本部長である近藤規元氏は「当社は新規な生理活性物質や創薬標的を探索する過程で、多くの分泌型蛋白をコードする遺伝子群を取得し、それらの機能解析を進めてきた。PD-1 は、こうした研究から得られた当社の遺伝子資産の一つである。当社は今回の提携によって新規な創薬標的に対する医薬品創製の可能性が飛躍的に伸びることを期待する。」と述べています。

以上

小野薬品工業株式会社  
広報室  
TEL：06-6263-5670  
FAX：06-6263-2950